

# 諸福小だより

大東市立諸福小学校  
令和元年8月28日(水)  
校長 小林 享子  
072-873-5816

## 夏季小中合同研修会



夏季休業中に諸福中学校と合同で研修会を開催しました。テーマは「子どもの学力に役立つ! ビジョントレーニング」視覚機能を鍛えることで発達不全を改善する内容です。ビジョントレーニングは、欧米諸国では、80年以上前から歴史があり、学習障害や注意欠陥多動性障害の子どもたちの改善・克服から、アスリートやプロスポーツ選手のパフォーマンス向上に至るまで、多くの人々の能力向上に

用いられているトレーニングです。からだの情報源である「眼」は、脳の活動全般に多大な影響を与えます。よって眼は脳の一部が外に出ている器官であるといえます。ビジョントレーニングでは、この眼の諸機能(視覚機能)を鍛えることによって、脳を活性化させるとともに、ヒトが本来持つ集中力・判断力・情報収集能力など、様々な能力を高めていきます。今回先生方にその体験をしてもらいました。2学期からの子どもたちの教育に取り入れていければと考えます。



## さらに「元気で楽しい学校生活」

37日間の夏休み、おかげさまで事故もなく、無事に新学期を迎えられることを、大変有難く思います。

夏休みは、自分で決めた目標(学習・生活・健康)をしっかりと行うことができたでしょうか。2学期も元気な子どもたちをますます元気にすることができるように教職員一丸となって努力していきます。

さて、保護者の皆様は次の三つのうち、どれに近い考えをお持ちでしょうか。

・人間は善をおこなうべき道徳的本性を持って生まれてくる。だから、よい心が悪くならないようによい行いを褒めてどんどんするようにし、悪いことはしないようにきちんとしかるべきだ。(性善説: 孟子)

・人間は利己的欲望を持って生まれてくる。だから悪い行いをやめさせるために、よい行いを示して、悪い心がだんだんよい心になるように教えなければならない。(性悪説: 荀子)

・人間は白い紙のように善悪の区別のない状態で生まれてくる。生活や社会体制などの後天的な理由で悪になったりする。だからよいこと悪いことの区別がつくように教え、よいことは進んでするようにし、悪いことはやらないように教え論していかなければならない。(白紙説: ロック)

これらに共通なことは「よいことと悪いことをきちんと教えること、よいことをしたら褒め、悪いことをしたらそれは悪いことと教え、しないようにする」ことです。そのためには、大人が、事実をしっかりみつめ、判断し、自信を持って毅然と、「自分のすべきことを怠けること」

や「友だちの邪魔をすること」「嫌なことや迷惑になること」は「やめる」ことをきちんと教え込む必要があります。その子の将来にとって、また子どもの集団や社会にとって好ましくないことは、学校でも繰り返して指導していきたいと思います。ご家庭においても、お子さまの生活に即して話し合い、躡けていただくようご協力お願いいたします。

## 思いやりは学校生活の原動力

詩人の宮澤章二さんの作品に「行為の意味」という詩があります。一部分を引用します。

確かに（こころ）は誰にも見えない  
けれど（こころづかい）は見えるのだ  
それは 人に対する積極的な行為だから



同じように胸の中の（思い）は見えない  
けれど（思いやり）はだれにでも見える  
それも人に対する積極的な行為だから

あたたかい心が あたたかい行為になり  
やさしい思いが やさしい行為になるとき  
（心）も（思い）も 初めて美しく生きる  
……それは 人が人として生きることだ



人は一人では生きていくことはできません。人は互いに支え、支えながら社会のなかで生きています。

そして、「思いやり」というあたたかい心に包まれて生きているのです。社会のなかで出会うさまざまな人々とのかかわりのなかで互いに助け合い、支えられながら生きているのです。

昨今、いじめ問題が話題となり深刻化しています。学校もひとつの社会ですからさまざまなことが起こります。しかし、そのときこそ他の人へのちょっとした思いやりやあたたかい心が非常に重要な意味を持つのです。たとえささやかな行為や思いであったとしても、そのことが相手の心に響くとき、そのぬくもりが周囲に波及し、よりよい学校生活を築く原動力となるでしょう。

いじめ問題を契機としてあらためて地域の皆さま、保護者の皆さまとともにあたたかい心のある学校づくりをしていきましょう。皆さまには2学期も引き続き、諸福小へのご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

**元気な子どもたちの声が聞こえてきます。2学期始業式の登校の様子です**



宿題を両手いっぱいを持って元気に登校してくれています。